

氏名	北畠義典	部署	健康開発学科	職名	教授
研究分野	運動疫学 公衆衛生学 疫学 健康教育				
学位	修士（体育）				
学歴	1987年 中京大学体育学部体育学科、1991年 中京大学大学院体育学研究科修士課程、1993年 中京大学大学院体育学研究科博士課程（中途退学）				
経歴	1994年財)明治安田厚生事業団 体力医学研究所研究員、2005年同研究所副主任研究員、2011年同財団新宿健診センター学術室 室長(兼務)、2012年公立大学法人 埼玉県立大学 保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 准教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 健康福祉科学専修 准教授、2014年 同大学院保健医療福祉学研究科 博士後期課程 准教授、2020年同大学保健医療福祉学部 健康開発学科 健康行動科学専攻 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士前期課程 健康福祉科学専修 教授、同大学院 保健医療福祉学研究科 博士後期課程教授				
所属学会（役職）	日本運動疫学会（監事）、日本健康教育学会（常任理事）、日本体力医学会（評議員）、American college of sports medicine、日本公衆衛生学会、日本疫学会、日本体育学会、日本運動生理学会、日本栄養改善学会、日本健康学会、日本学校保健学会、日本ストレス学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Association of social network with the incidence of frailty and depressive symptoms among older adults: a two-year longitudinal study.	共著	あり	○	Arch Gerontol Geriatr. 2025 Oct;137:105945. doi: 10.1016/j.archger.2025.105945. Epub 2025 Jul 7. PMID: 40683149.	Manabe T, Nemoto Y, Ueda T, Yamada T, Sato S, <u>Kitabatake Y.</u> Takeda N, Maruo K, Arao T.	2025.10
2	Socioeconomic Differences in Access to Information on Health and Social Activities Among Community-Dwelling Older Adults: A Cross-Sectional Study.	共著	あり	○	J Appl Gerontol. 2025 Dec 29;7334648251412940. doi: 10.1177/07334648251412940. Epub ahead of print. PMID: 41460087.	Karasawa S, Yamada T, Ueda T, Tanaka M, Ishizuka R, Sato S, Takeda N, Maruo K, <u>Kitabatake Y.</u> Arao T, Nemoto Y.	2025.12
3	Associations of Physical Activity With Incidence of and Recovery From Knee Pain Among Older Adults: A 3-Year Longitudinal Study.	共著	あり	○	J Aging Phys Act. 2026 Feb 2:1-8. doi: 10.1123/japa.2024-0287. Epub ahead of print. PMID: 41633345.	Sato S, Nemoto Y, Takeda N, Yamada T, Nakamura M, Maruo K, Kitabatake Y, Arao T.	2026.2

（３）学会発表					
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	地域在住高齢者に対するアクションリサーチを用いた住民主体の運動プログラム構築	共同	第33回健康教育学会、東京	○亀山泉、 <u>北畠義典</u> 、津野陽子、岸本俊樹、助友裕子	2025.6
2	地域在住高齢者の社会的孤立と健康関心の関連について 横断研究	共同	第67回日本老年社会科学会、幕張メッセ	○山田 卓也、根本裕太、佐藤慎一郎、武田典子、小澤初美、 <u>北畠義典</u> 、福田吉治、荒尾 孝	2025.6
3	高齢者の健康関心とフレイルの関連における「通いの場」参加の媒介効果の検討	共同	第84回日本公衆衛生学会、静岡	○山田卓也、根本裕太、植田拓也、佐藤慎一郎、武田典子、小澤初美、 <u>北畠義典</u> 、福田吉治、荒尾孝	2025.10
4	介護予防事業による高齢者の健康行動および健康指標への影響：8年間の縦断調査	共同	第84回日本公衆衛生学会、静岡	○小澤初美、天野奥津江、山田卓也、植田拓也、佐藤慎一郎、武田典子、 <u>北畠義典</u> 、荒尾孝、根本裕太	2025.10
5	地域在住高齢者における身体活動量および強度と認知症発症との関連：7年間の縦断研究	共同	第84回日本公衆衛生学会、静岡	○川口美咲、根本裕太、佐藤慎一郎、山田卓也、武田典子、 <u>北畠義典</u> 、荒尾孝	2025.10
6	地域在住高齢者に対するアクションリサーチを用いた住民主体の運動プログラム構築	共同	第84回日本公衆衛生学会、静岡	○亀山泉、 <u>北畠義典</u> 、津野陽子、岸本俊樹、助友裕子	2025.10
7	労働者におけるヘルスリテラシーと疼痛の自己効力感との関連	共同	第84回日本公衆衛生学会、静岡	○岸本俊樹、 <u>北畠義典</u> 、関美雪、亀山泉、延原弘章	2025.10
8	地域在住自立高齢者の膝痛と死亡、要介護、認知症発症との関連：7年間コホート研究	共同	第84回日本公衆衛生学会、静岡	○佐藤慎一郎、根本裕太、山田卓也、武田典子、中村睦美、丸尾和司、小澤初美、 <u>北畠義典</u> 、荒尾孝	2025.10
（４）その他					
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし				
2．競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省 基盤研究(C)	地域高齢者に対するクロノタイプを考慮した不眠予防の最適化に関する橋渡し研究		研究代表者	2025.4 - 2028.3
2	文部科学省 基盤研究(B)	心身機能低下者の通いの場参加を促し元気高齢者との格差を縮小する包括的支援策の構築		研究分担者	2022.3 - 2026.3
3	埼玉県立大学 プロジェクト研究	介護者の業務上疾病予防と安全なケア提供のための機械学習応用型移乗介助技能評価システムの開発		研究分担者	2025.4-2027.3

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	学部：健康科学1（健康教養）	○	15	健康科学を学ぶ際に必要な、基本的な知識の習得を目的とした（科目を健康教養として位置付ける）。以下3点を中心に、健康に関する専門的な知識の習得を目指した。 1. 健康の定義を理解し、健康観について考察を深める。 2. 疾病予防の知識を養う。 3. 正しい健康情報の取得と伝え方を学ぶ。 特に2020年度以降はコロナウィルスの感染拡大の話題を盛り込んで予防行動の変容の困難さや介入方法の工夫について学べるように説明をした。
2	学部：健康科学2（健康運動論）	○	15	身体的、精神的および社会的健康に対する身体活動の効用についての理解を深めることを目的とした。そのために以下の3点を重視して授業を展開した。1. 身体活動の定義を理解し、身体活動が健康づくりのための手段のひとつであることを理解する。2. 非感染性疾患予防のための身体活動の効用を科学的根拠に基づいて理解する。3. ライスステージ別の身体活動ガイドラインを理解する。特に2020年度はコロナウィルスの感染拡大の話題を盛り込んで不活動の健康に対する影響について授業を進めた。特に運動疫学会から発信される情報をもとに最新の情報を伝えた。
3	学部：卒業研究		30	例年、各学生が仮説を立て、それを実証するためにデータを収集し、そのデータを解析した結果をもとに考察を深めることを実施してきた。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のためデータ収集が困難のため、既存をデータを用いて解析を実施して各学生のテーマについて理解を深めた。
4	学部：運動疫学	○	15	運動（身体活動）の疾患予防や健康づくりに対する有効性について疫学研究から学ぶ。授業を通じて質の高いエビデンスを選択する能力を高め、質の高いエビデンスを人に伝える方法を習得する。そのために、一定のキーワードを学生に伝え、文献検索を実施させ、選択能力を確認させた。また、学生には選んだ文献を熟読させて、それを発表させて、学生全員で吟味した。
5	学部：健康行動科学入門1		1	私のこれまでの研究を紹介し、研究の面白さを伝えて、エビデンスづくりについて理解を深めた。
6	学部：健康行動科学入門2		1	身体活動の健康に対する効用に関するエビデンスを用いた政策づくりについて、国の指針やこれまでの私の研究を用いて説明をし理解を深めた。
7	大学院（博士前期課程）：地域課題研究	○	15	保健医療福祉政策プログラム（履修証明プログラム）における必修科目である。授業の前半では、受講者が教員の指導・助言を受けつつ、勤務する地域、組織等の保健医療福祉の現状の把握や課題解決の方向性の検討を行う。後半では、受講生がそれらの結果について、全ての科目担当教員と受講生が参加するワークショップで発表し、議論を行う。
8	大学院（博士後期課程）：健康長寿論	○	15	高齢化の進むわが国においては、生活習慣病や精神疾患等の非感染症、介護が重要な問題となっているが、これらはいずれも予防が重要である。本講義では、健康長寿の実現に向けて、これらの疾患の危険因子の探索方法や予防プログラムの開発・評価方法について解説し、主として疫学的な観点から、長寿社会における健康に資する研究の立案を行える能力の獲得を目指した。工夫としてはこれまでの私自身の研究を基本に現行の介護予防や包括支援システムについて理解を深めた。

9	大学院（博士後期課程）：健康情報学研究論	○	3	履修生が研究計画を作成できるように、公衆衛生・疫学、健康教育学、運動疫学、健康社会学、社会心理学、産業保健学および政策科学などの各分野での健康・医療情報の正しいエビデンスの収集、蓄積、および伝達方法について履修者は学習する。各履修生は学習した内容を活用し、健康情報学領域の教員とディスカッションを進め、研究計画作成の基礎を構築する。
10	大学院（博士後期課程）：加齢神経運動機能論		3	加齢や不活動による神経・運動機能低下の予防について運動生理学、スポーツ科学などの新たな知見と研究手法を用いて説明した。また、以前に我々が開発した高齢者用の身体機能テスト（生活体力測定）を用いた研究を紹介して地域で実施されている介護予防について理解深めた。
11	大学院博士前期：特別研究Ⅰ・Ⅱ		30	博士論文の作成のための指導。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	学部：健康運動論演習	○	15	健康を評価する主観的、及び客観的指標の特徴を学習し、調査・測定方法の注意点やデータ解析の方法を学ぶ。そのために、実際に履修生を対象に主観的、及び客観的指標を用いて、データを収集し、解析して、結果について先行研究を参考に解釈を深めレポートにまとめさせた。
2	学部：課題別演習Ⅰ・Ⅱ		30	卒業研究に関する研究計画書の作成方法（研究倫理、エビデンスレベル、統計解析、論文の書き方）
3	大学院：健康長寿演習（博士後期課程）	○	15	地域での健康づくりに関する、介入方法（プログラム開発）、評価方法、住民と行政との協働の作り方を実例をあげて解説。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	学部：ヒューマンケア体験実習		15	「ヒューマンケア論」で学んだことを、保健・医療・福祉の実践現場にて実際に体験し、援助を必要とする人々・保健医療福祉に携わる人々・グループメンバーなどと直接的に関わることによって、①自己の人との関わり方を客観視する姿勢、②グループメンバーと協力し合う姿勢、③援助を必要とする人々のニーズや保健医療福祉に携わる人々の役割へ関心を向ける姿勢、④多様な人間観・価値観を理解しようとする姿勢を養う。①～④が現場のどの場面で大切かがわかるように解説を加える。
2	学部：健康プログラム実習		30	各種健康増進施設や学校あるいは職場における健康支援プログラムや健康教育プログラムの立案・実施・評価の活動を実践することを目的としている。具体的には、3年次前期に実施した健康調査で回収された調査票を集計・分析して、その結果から対象者の健康実態、ニーズ等を把握し、ニーズに対する各種健康支援プログラムを立案する。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025.3 - 2026.3	主指導 5名	副指導 名
2	修士論文	2025.3 - 2026.3	主指導（指導教員） 2名	副指導（指導補助教員） 2名
3	博士論文	2025.3 - 2026.3	主指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 2名

(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	東京大学 非常勤講師	2025.4 - 2026.3	身体運動科学	
2	大学院審査（主査・副査）	2025.4 - 2026.3	博士前期課程 主査1名、博士後期課程 副査1名	
3	大学院研究生 指導	2025.4 - 2026.3	1名：学会発表と論文執筆の助言	
4	他大学 博士論文審査	2025.12	副査1名	
5	人事委員会 委員	2025.4 - 2026.3	人事採用審査（2件）	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	埼玉未来大学 講義	埼玉未来大学（熊谷学園）	健康長寿プログラムのエビデンスと習慣化に向けて	2025.6
2	健康運動指導士会養成講座	公財）健康・体力づくり事業財団	体力測定と評価 介護予防に関連する体力測定法とその評価	2025.6・11
3	越谷市 市民健康教室	越谷市保健センター	「運動の講話と実習」いつでもどこでも+10 ～こまめに身体を動かそう～	2025.7
4	越谷市チームー3キロ	越谷市保健センター	テーマ：減量に効果的な運動は？	2025.1
5	ふじみ野市	ふじみ野市保健センター	ねむり改革！睡眠と生活リズムから考える健康の新習慣	2026.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	春日部市健康づくり推進審議会		委員および会長（議長）	2020年4月～現在 に至る
2	春日部市高齢者保健福祉計画等推進審議会		委員および会長（議長）	2020年4月～現在 に至る
3	越谷市生涯学習審議会 会長(2025.4～)		委員および会長（議長）	2021年4月～現在 に至る
4	戸田市保健対策推進協議会		委員および会長（議長）	2021年4月～現在 に至る
5	武里団地ささえあいの会		委員	2018年4月～現在 に至る
6	都留市セーフコミュニティ		外傷サーベイランス委員会委員	2019年11月～現在 に至る
7	都留市長寿介護課（都留市と県立大学との共同研究協定）		都留市研究（地域高齢者の集団的健康づくりの開発とその評価）	2016年1月～現在 に至る
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし	健康教育学会編集委員会	日本健康教育学会誌 査読	2025年4月
2	該当なし	Journal of Aging and Physical Activityの編集委員会	Journal of Aging and Physical Activityの査読	2025年9月
3	該当なし	第33回日本健康教育学会学術大会	日本健康教育学会 一般演題 座長	2025年7月
4	該当なし	第84回日本公衆衛生学会総会	日本公衆衛生学会 一般演題（第2分科会） 座長	2025年10月

5. 学内運営			
1	全学的委員会及びセンター業務等	情報センター長	2025年4月～現在
2	学科等における委員会等	大学院教務委員会 委員	2021年4月～2026年3月
3	学生支援	D's bar 顧問	2012年10月～現在
4	学生支援	SPUEミレーツサークル（自転車）顧問	2024年4月～現在
5	大学広報活動	オープンキャンパス 授業紹介	2013年4月～現在
6	大学広報活動	大学見学の高校への専攻説明（2校）	2025年4月～2026年3月
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		